

関西エアポート 2016年度上半期スケジュール実績・利用状況 ～上半期の旅客数は2,000万人を突破～

関西エアポート (KIX+ITM) 総旅客数

関西国際空港と大阪国際空港の両空港における総旅客数は2,030万人（前年比+5%、974,021人の増）となり、年度上半期として過去最高となりました。

空港別では、関西国際空港が前年比+7%、826,634人増加の1,281万人、大阪国際空港が前年比+2%増の750万人となりました。

国際線旅客数 (KIX)

関西国際空港 2016年夏スケジュールにおける国際線旅客便数は前年比+7%、75便増加の週1,109便で過去最高となりました。

外国人旅客の海外旅行先として日本の人気が高まっていること、大型機の増加やLFの改善に加え、既存ルートの人気の高さや期中の新規地点の就航等により日本全体で見ても2015年の訪日外国人旅客数は1,973万人¹に達しております。関西国際空港においても2016年度上半期の国際線旅客数は、前年比+13%、110万人増加の950万人となり、こちらも年度上半期として過去最高を記録しました。

2016年度上半期(4-9月)における国際旅客便の主な新規就航・増便

航空会社	路線	週間便数	運航開始日
バニラ・エア	台北	0→7	4/28～
エア カナダ	バンクーバー	0→6	5/15～
フィリピン航空	台北=マニラ	0→7	6/25～
山東航空	済南=昆明	2→7	7/1～
香港航空	香港	0→7 7→14	7/15～ 9/15～
上海吉祥航空	南京	0→4	8/1～
エバー航空	高雄	7→9	8/18～
ティーウェイ航空	グアム	4→7	9/1～

¹ 日本政府観光局(JNTO)発表値



バニラ・エア 関西=台北 就航
セレモニー (2016年4月28日)

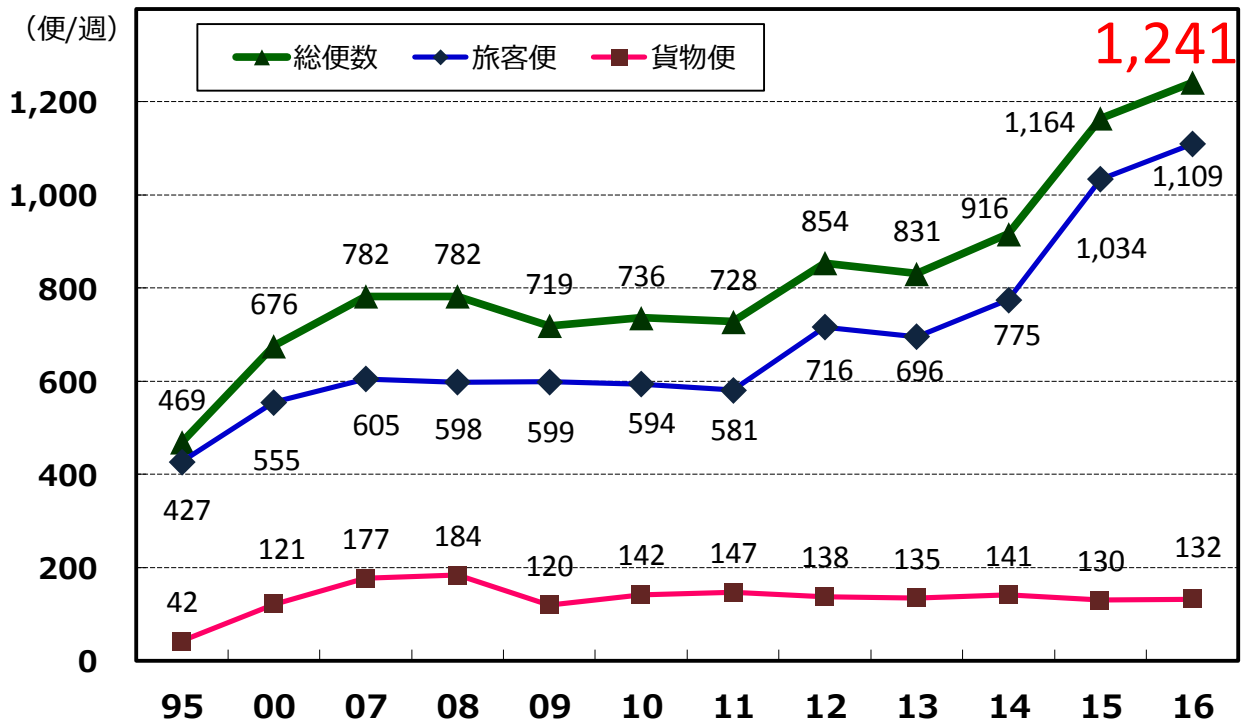


フィリピン航空 関西=台北=マニラ 就航
セレモニー (2016年6月25日)



香港航空 関西=香港 就航
セレモニー (2016年7月15日)

夏期スケジュール(実績)



国内線旅客数(KIX + ITM)

関西国際空港の国内線旅客数は 2016 年度上半期において前年比-8%、217,236 人減の 331 万人となりました。

一方で大阪国際空港については、前年比+2%、147,387 人増の 750 万人となりました。

2016 年度上半期の関西国際空港、大阪国際空港両空港合計の国内線旅客数は前年比-1%の 1,081 万人となりました。

春秋航空日本の関西=成田線就航（9月28日～ 1往復/日）により、今冬以降の国内線旅客数の回復を期待しております。



画像提供：Spring Japan(春秋航空日本)



春秋航空日本 関西=成田 就航
セレモニー（2016年9月28日）

貨物量(KIX+ITM)

中国経済の減速にも関わらず、2016 年度上期の関西国際空港、大阪国際空港両空港の国際貨物量は（2%増の 350,232 トン）と増加しました。国内貨物量は-0.2%減の 76,093 トンとなっております。

国際貨物の輸送可能スペースについては、直近のユニトップエアラインによる、中国の深セン-関西間のデイリー運航により、毎月 1,000 トンを超える供給量が増加しました。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社

コーポレートコミュニケーション部 広報グループ

Tel : 072-455-2201

関西エアポート株式会社 について

関西エアポート株式会社は、関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITM）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しました。関西エアポートは、オリックス株式会社とVINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。

関西エアポートは、両空港の安全とセキュリティを常に最優先しつつ、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化し、両空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへ貢献することを目標としています。

関西エアポートは、2015年12月15日付けで新関西国際空港株式会社との間で、事業期間を44年とする「関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等公共施設等運営権実施契約」（実施契約）を締結しています。

会社名

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	資本金	250億円
代表者	代表取締役社長 山谷 佳之 代表取締役副社長 エマヌエル・ムノント	設立年月日	2015年12月1日
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等	株主	オリックス 40%、ヴァンシ・エアポート 40%、その他の出資者 20% (*1)



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界36カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。

2014年に50周年を迎え、これからも経営戦略である「金融+サービス」の加速化、「アジア等新興国の成長を取り込む」を推進し、新たな事業機会の獲得と持続的な成長を目指すと同時に、社会に貢献してまいります。



ヴァンシ・エアポートは、フランスで12、ポルトガルで10（リスボンのハブ空港を含む）、カンボジアで3、日本で2、ドミニカで6、そしてチリで1空港の合計34空港の開発および運営を行うグローバル企業です。

ヴァンシ・エアポートが運営する空港ネットワークの2015年の年間利用者数は1億人にのぼり、140社を超える航空会社が就航しています。2015年のヴァンシ・エアポートの年間売上高は8億2000万ユーロ(*2)を記録しています。

ヴァンシ・エアポートは、深い知見と、プロフェッショナルリズムあふれる世界各国の8,500名のスタッフの力を合わせ、その投資力や国際ネットワーク、既存空港のインフラ運営最適化、施設の拡充、新規建設における専門性を生かし、空港の開発、資金調達、建設、および運営を行っています。詳細につきましては、www.vinci-airports.comをご覧ください。

(*1) その他の出資者

株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社ジェイティービー、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

(*2) 日本、チリ、ドミニカ共和国の各空港のデータを含まず。